



上宝かわら版

2021年 4月版

「上宝だから」



飛騨上宝自然人倶楽部

HIDAKAMITAKARA SHIZENJINCLUB

= 美しく、楽しく歳を重ねるために =

新型コロナは世界中に「命」の危険をばらまきました。

特に高年齢の人への注意事項として、「命を守るためには感染しないこと」「感染しないためには人と接しないこと」「人と接しないために外出を控えること」「これが高年齢の人に向けた新型コロナに対する政策です」と言われた歴史を10年後に振り返ったら、人はどう思うでしょう？

「あれから10年、孤独死で死にそうだよ！」という笑い話になりかねません。

私は飛騨高山の上宝をこよなく愛し、この地を終の棲家と決めた者として、そのような生き方はしたくありません。私は特に高年齢者の立場で「新型コロナに立ち向かうために大切なことは？」について以下のように考えています。

「命を守るためには、自己免疫力を高めること」「自己免疫力を高めるためには、健康で、いい環境に住んで、いい仲間と交流すること」「健康とは、いい食べ物を食べて、よく体を動かして、よく眠って、笑うこと」「老後は、アンチエイジングではなく、サクセスフルエイジングを目指すこと」「サクセスフルエイジングとは、幸せで明るい老後を送ること」

「明るい老後とは、家族に囲まれ、仲間と笑い話をする事」

私は飛騨高山上宝で楽しい仲間と囲まれ、サクセスフルエイジングを楽しんでいます。

新型コロナも、変異型コロナも怖くありません。

私は今年の3月まで、Hit's FMで「白ひげ弁護士のつれづれ日記」という名のトーク番組を担当していましたが、その中で繰り返し述べていたのは「新型コロナ禍では、最低限の幸せに絞りましょう」「食べられて（健康）、住むところ（良い環境）があって、良い仲間があれば、幸せ」「その幸せのために、デジタルのスマホ、アナログのペット、そして軸のぶれない自分」という「**幸せの3原則と3種の神器**」についてです。

私は上宝の人達とこのような考え方の元に、末永くお付き合いしたいと思っています。

そこで、私たちはペット（家族の一員）として秋田犬さくらを飼っていますが、近々上宝夢工房の敷地をドッグランに改造して近所の皆さんと共にペットの遊び場にしたいと思っています。またその発想を拡大して、奥飛騨温泉郷の平湯大滝公園に「日本犬の里」を作ろうという案があることも報告します。私の楽しみはまだまだ続きます。

畑の野菜を猿から守ろう！



2020年、上宝では猿による農作物への被害が深刻な状況でした。本社がある吉野へ続く道路で猿の集団に出くわしたこともありました。朝から空砲が鳴り響き、「ああ、どこかでまたサルが出たんだ」と思う日が続きました。吉野から移動した猿は本郷へ、そして見座や在家また吉野へと移動を繰り返し、大切な畑の作物を手当たり次第に荒らしました。イノシシによる被害も大変ですが、猿はもっと厄介かもしれません。現在、猿による畑の被害防止には様々な方法がとられています。しかし、それはいずれも行政中心ではなく、被害に遭った農家自体が当事者として実施するべきものと捉えられています。文字にすれば簡単ですが、これは農家の直接的な被害に加えて、物作りへの意欲減退につながる非常に深刻な問題だと考えます。

猿の習性

猿は集団で行動し人間と同じように手が使え知能が高い。一定の行動範囲の中で、餌を求めて昼間に移動します。

雑食であり、普段は山の木の实や昆虫類を餌にしますが農作物の味を覚えると繰り返して来るようになります。農作物など被害に遭ったものをそのままにしておくと、エサ場として認識し、エサ場の情報は仲間の猿に伝えられ、集団で来ることにつながります。また、群れを仕切っているのはオスではなくメスで、餌のありかを知っているのはメス。そして母猿から子猿へとその情報は受け継がれていきます。

猿が苦手なもの

ドングリなど苦いものは平気で食べます。一方、辛いものは苦手なので唐辛子やピーマン、紫蘇・アロエやハーブ類、

こういったものを1番外側に植えるのもひとつの方法です。

大きな音・・・花火や爆竹、空砲は効果的です。怖がらせることは大事です。

電柵・・・猿は電気ショックによる痛みには慣れないため効果的です。また学習能力が高いため、一時的に電流が流れていなくても近づかなくなります。

猿を近寄らせない

有効的な電柵の近くに、飛び移れるような物を置かない事。

電柵は恐いと認識しても、近くに飛び移れるものがあれば

平気で超えて侵入します。またエサ場となるようなものを作らない事が大事で野菜くずや生ゴミを外に置いておくと猿は寄ってきます。収穫した残りの野菜などは放置しない、お墓参りのお供えなどは持ち帰る事も大事になります。

収穫しない柿や栗などの木は思い切って伐採するのも有効的です。猿が隠れる場所になるので藪を作らないこと、そして山と集落の境を見通しよくして、猿が木を伝って侵入するのを防ぐことが大事です。また、木に登って逃げるため、やはり立ち木がない場所を作れば、猿の逃げ場を減らすことができます。

EM活性液による害獣駆除大作戦

サルの被害は諦めない事が大切！その予防と対策

猿の駆除には根気が必要です。

効果的と思われる対策をしても知能の高い猿とのイタチごっこのようになりますが、諦めないことが重要です。群れで暮らす猿はメスが子供に餌のありかを教えるので、逆に言えば、メスにエサ場と認識させなければ子供に伝わることもないのです。

野生の猿の寿命は10～15年と言われていますが、中には20年以上も長生きする猿もいます。対策を諦めてしまうと、この長い間猿の被害が続いてしまうのです。

猿がどこからどうやって侵入してくるのかを徹底的に分析して、正確な対処法や情報を集めて集落全体の問題として猿を駆除しましょう。

集落全体で取り組めば、畑をエサ場として認識しなくなり、被害も少なくなっていくはずですが。各家庭での協力も大事であることを認識して、猿の餌になるようなものを外に置かない、畑に残さないを諦めずに継続しましょう。

EM活性液による猿対策の実施例

2020年、清見町大原でEM活性液を使っただの猿の駆除が行われました。

その時の様子はYouTubeにて見ることができますので下記にアクセスして下さい。

<https://youtu.be/DSNk0g1kOOI>

2021年は下呂市の馬瀬で実施予定です。

実際に猿の駆除に成功している事例があるので参考にしてみてくださいはどうか??

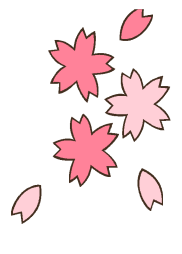
EM活性液による猿対策の説明会を開きます

4月24日（土）、静岡県のEM研究所の山岡氏と、実際に清見で実施したNPO法人すえひろさんを招いて説明会を行います。

猿被害に実際に効果を上げているEM活性液による駆除について専門家がお話し致しますので、猿の被害に遭われている方やEM活性液について興味のある方はこの機会にぜひお越し下さい。質問等も受け付けます。

- ◆ 日 時 4月24日（土） 14：00～16：00（予定）
- ◆ 場 所 上宝夢工房（善九郎カフェ）
- ◆ 参加費 無料
- ◆ 主 催 飛驒上宝自然人倶楽部 NPO法人すえひろ

お知らせ と 報告



◆ れんこん田んぼの補修・改修作業を行います

上宝本郷で行っている寒冷地でのれんこん実験栽培は丸4年を終えました。無理と言われていた寒冷地での蓮根栽培は軌道に乗り、出荷も高山市内で安定してきました。しかし、この4年間の間に水を張りっぱなしのれんこん田んぼはかなり傷んでしまい、去年は土手から水が漏れたりと沢山のご迷惑をおかけしました。加えて、敷いてあるシートもれんこんの強さに負けて穴が開いたり日に焼けて破れたりと交換の時期が来たと判断しました。4月から田植え時期前迄を目安に完全に水を抜いて田んぼを作り替える作業に入ります。今まで上下2段のれんこん田んぼでしたが、米作りの田んぼに迷惑がかからないように上1段だけに減反することにしました。新しい田んぼで、また美味しい蓮根ができる事を期待しています。



◆ 上宝夢工房裏の畑を再開発します

善九郎カフェの裏にある農業体験用の畑は、今植えてあるタマネギを収穫したら再開発にかかります。今まで皆さんに教えて頂きながらジャガイモをはじめ、ネギ、胡瓜、トマト、白菜、キャベツ、冬瓜、スナップエンドウ、ラディッシュ、落花生と全くの素人の私達が自分の食べるものを自分で作るという貴重な体験をさせて頂きました。形や色が悪くても自分の作ったものは愛おしく、改めて食物を作ることの大変さを痛感し大事にする事を身をもって体験させて頂きました。鍬の握り方、土の寄せ方、堆肥のやり方など、始めから教えて頂いた皆様には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

畑は綺麗に整地して、上宝の皆さんが楽しく利用できるよう再開発の予定です。

◆ 善九郎カフェのリニューアルは少々延期となりました

4月から始める予定だった善九郎カフェのリニューアルは、裏の畑の再開発予定に伴って、しばらく延期となりました。



◆ 弊社スタッフ、文珠小夜子が3月末日にて退職致しました

今後は実家である九州(福岡)に戻り母親の介護をすることになりました。毎日自転車に乗って会社へ通う姿を見かけた方も多かったと思います。声をかけて頂いたことも多く、せっかく馴染んだ上宝を去ることは寂しいと残念がっていました。お世話になった皆さん、1年半の間ありがとうございました。